

# 日本語授受動詞の補助動詞用法における相互承接について

葛西 麻祐子

(言語文化学部ポルトガル語)

キーワード：やりもらい，補助動詞，相互承接，格表示，依頼表現

## 0. はじめに

本稿は、日本語の動詞複合体<sup>1</sup>において、授受動詞<sup>2</sup>が補助動詞として相互に承接している用例をコーパスから収集し、各授受補助動詞の相互承接の可否や名詞句の格表示、授受補助動詞が相互承接する形式の用法などを明らかにすることを目的とする。なお、本文中の例文番号、図表番号、下線は、特に断りのない限りすべて筆者によるものである。

## 1. 先行研究

1.1.では、授受動詞の各形式について分析している奥津 (1986) を、1.2.では授受補助動詞が相互承接した場合の構文について分析している宮地 (1965) を、1.3.では授受補助動詞構文における名詞句の格表示や用法について考察している山田 (2004) をまとめる。1.4.では、各先行研究の相違点をまとめ、本稿における議論の見通しを示す。

### 1.1. 奥津 (1986)

奥津 (1986) は授受動詞の本動詞用法について考察した論考であり、「くださる、くれる、さしあげる、あげる、やる、いただく、もらう」を3つの指標によって分析している。以下に奥津 (1986: 99) を要約する。まず、与え手を主語とする動詞を与え動詞、受け手を主語とする動詞を受け動詞と称する。次に、与え手あるいは受け手が、話し手に対して目上であるか目下 (非目上) であるか、すなわち待遇関係によって異なる授受動詞が用いられる。さらに、話し手が与え手と受け手を近いもの (内) と見ているか、遠いもの (外) と見ているかによって、異なる授受動詞が用いられる。以上の3要素によって、7つの授受動詞の対立関係を示したものが以下の図1である。図中の●は主語を示している。

<sup>1</sup> 河野 (1989) は、「日本語の動詞すなわち用言は、語幹に種々なる接辞 (助動詞) や助詞が付いて複合体を作る。これを用言複合体 (verb complex) と言う。たとえば、書カセラレナカッタは、書カ- セ- ラレ- ナカッ- タと、4つの接辞が付いて1つの複合体をなしている」(河野 1989: 1581 を引用) と述べている。これに対し風間 (1992) は、自身の研究対象から形容詞語幹の複合体を除き、動詞を語幹に持つ複合体のみを研究対象とし、「動詞複合体」と称している。風間 (1992) によれば、河野 (1989) の用言複合体と風間 (1992) の動詞複合体はほぼ同じものだと考えられるが、前者は「～ている」や「～しはじめる」のような補助動詞を含むかどうか明らかではない。一方後者は (補助動詞を含む) 生産性が高く文法的な機能を持つ形式を、広く構成要素に含めている。以上、風間 (1992: 243) を要約した。本稿では、本動詞に対し補助動詞用法の授受動詞が2つ承接した形式を扱うため、風間 (1992) が定める動詞複合体を研究対象とする。

<sup>2</sup> 宮地 (1965) は「やる、くれる、もらう」を「受給動詞」、奥津 (1986) は「くださる、くれる、さしあげる、あげる、やる、いただく、もらう」を「やりもらい動詞」と、山田 (2004) は補助動詞「てやる、てあげる、てさしあげる、てくれる、てくださる、てもらう、ていただく」をベネファクティブ形式と称しているが、本稿では「受給動詞」「やりもらい動詞」「ベネファクティブ形式」を「授受動詞」に統一する。

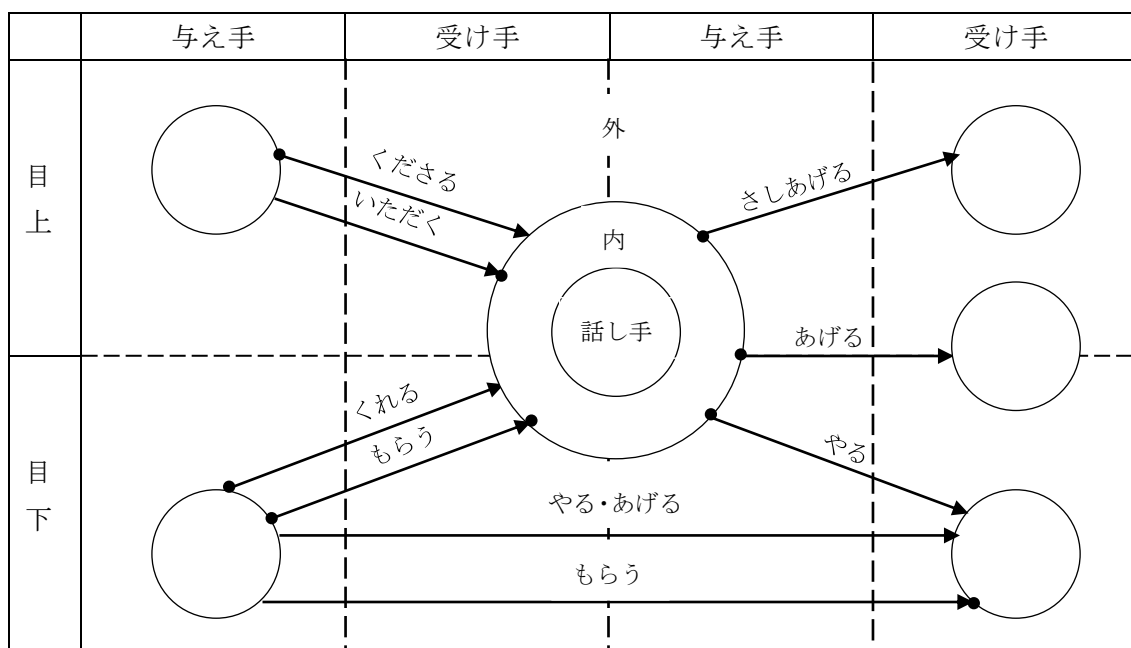


図 1: 授受動詞の対立関係 (奥津 1986: 99 を引用)<sup>3, 4</sup>

## 1.2. 宮地 (1965)

宮地 (1965) は授受補助動詞が相互に承接する形式の構文について分析した論考である。宮地 (1965: 30) によれば「てやる、てくれる、てもらう」の 3 つの形式を 2 つずつ組み合わせると 6 種に及ぶと考えられるが、実際には「てくれてやる」「てくれてもらう」という形式は共通語では用いられず、組み合わせは 4 種に留まるという。以下、宮地 (1965: 30-32) を要約する。授受補助動詞が相互承接する場合、授受関係には 3 者が関わっている。このような授受関係を示したものが次の図 2 である。矢印は事物の授受の方向を、S は主語を、◎はその表現において話し手の関与する側を、△は本動詞「書く」の主者を示す。それぞれの形式は、①「C のために、B が A に書いてもらってくれる」、②「C のために、B が A に書いてもらってやる」、③「C のために、A が B に書いてやってくれる」、④「C が、A から B に書いてやってもらう」という構文になる。④「書いてやってもらう」では、C が文の主語に立ち、A は目的語<sup>5</sup>に立つ。ここでは、内的主述関係＜A が B に書いてやる＞では主者だった A が、外的主述関係における主者 C とぶつかって、外的主述関係では目的語に立つことになる。そのため、④では①～③にはなかった構文上の格の制約が表立っている。

<sup>3</sup> 奥津 (1986) は、話し手が与え手でも受け手でもない第三者で、与え手と受け手のどちらとも等しく親しい関係性にあり、どちらが内とも外とも言えない場合においても「やる、あげる、もらう」が使用されることもあると分析しており、図 1 下部の水平の矢印で示している。

<sup>4</sup> 図 1 左下の「もらう」のななめ矢印には●が 2 つ付いているが、これは奥津 (1986: 99) の記述をそのまま引用したものである。正しくは左下の「もらう」のななめ矢印の先と、下から 2 本目の「やる・あげる」の矢印の根元に●が付くものと思われる。

<sup>5</sup> 宮地 (1965: 31) の記述に従う。以下も同様である。

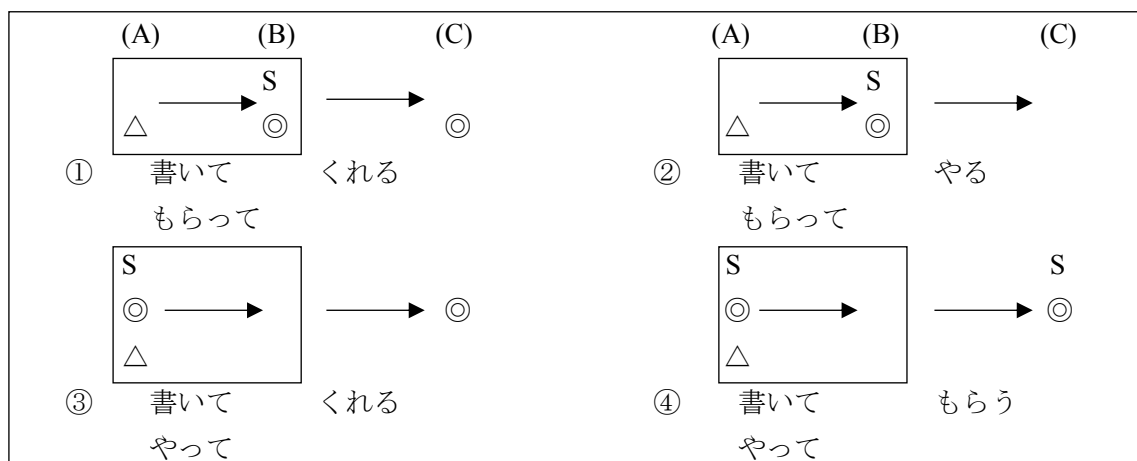


図 2: 授受補助動詞が相互に承接した述語を持つ文の構造 (宮地 1965: 30 を引用)

### 1. 3. 山田 (2004)

山田 (2004) は授受補助動詞の意味・用法および機能について分析した論考である。山田 (2004) は「てやる、てあげる、てさしあげる」を総括して「テヤル系列」、「てくれる、てくださる」を「テクレル系列」、「てもらう、ていただく」を「テモラウ系列」として、待遇的バリエーションを一括した記述を行っている。本稿でも必要があれば「テヤル (系列)」「テクレル (系列)」「テモラウ (系列)」と系列ごとにまとめて記述を行う。

#### 1. 3. 1. 授受補助動詞構文に含まれる名詞句の格表示

山田 (2004) は授受補助動詞構文の受益者の格表示について Shibatani (1979) を参照して論じている。以下、山田 (2004: 85-89) を要約する。次の例文 (1) は、Shibatani (1979: 301, 304) より引用し、表記を改めた。

(1)a. 僕は太郎に本を送ってやった。

b. [僕は X のために [僕が太郎に本を送 r]- てやった]

山田 (2004: 86-87) 曰く Shibatani (1979)<sup>6</sup> は、(1a) の「太郎に」が「僕が太郎に本をやった」の「太郎に」と同じく扱われるという、それまでの文法理論で主張されていた考え方を退け、(1b) のような構造から、「太郎に」は、埋め込まれた事態に含まれる二格名詞句である、と主張した (the NP-ni of the -te yaru construction should be identified with an indirect object of the embedded clause rather than with the NP-ni of the simple yaru construction. (Shibatani 1979: 301-302)。山田 (2004) によれば、このような Shibatani (1979) の主張は、本動詞がヲ格およびト格名詞句を必須的に要求し、その名詞句が受益者となる場合、受益者が動詞の要求するヲ格やト格を取ることから確かめられる。本動詞が二格を要求する場合にも、二格がそのまま受益者として表出される。本動詞の項が受益者となる場合、本動詞の項としての格表示が保持されるが、受益者を特に強調したい場合や、本動詞が主語以外に項を持たない自動詞の場合、そして項以外の受益者を取る場合には、受益者はノタメニ格で表される。

<sup>6</sup> Shibatani (1979) の訳出は山田 (2004: 86-87) によるものである。

### 1.3.2. 授受補助動詞に由来する依頼表現

山田 (2004) は授受補助動詞に由来する依頼表現について考察している。以下、山田 (2004: 225-229) を要約する。山田 (2004) は、授受補助動詞に由来する依頼表現の形式を挙げている。依頼という行為自体が働きかけのモダリティの下位分類であるため、聞き手の存在 (聞き手目当て性) が不可欠である。そのため依頼を表す形式は、文末が①命令形であるか、②上昇イントネーションを伴う (?で示す) 疑問形式であるか、③ノダガ、ノダケドで言い終わるかのいずれかである。さらに、否定、願望、意志、推量などの形式を介在することがある。加えて、明確な依頼の行為であるならば、聞き手は「いいですよ」などの発話で返答可能である。以下に授受補助動詞に由来する依頼表現を山田 (2004: 227-229) より引用する。() で示した形式は、実際にはほとんど現れないものである。

A1 類: テクレル+命令、A2 類: テチョウダイ: テ形、オ+命令形

B1 類: テクレル+疑問、B2 類: テクレル+否定+疑問、B3 類: テクレル+否定+推量+疑問

C1 類: テモラウ+可能+疑問、C2 類: テモラウ+可能+否定+疑問、C3 類: テモラウ+可能+否定+推量+疑問

D1 類: テモラウ+可能+テ(モ)+評価+疑問<sup>7</sup>、D2 類: テモラウ+可能+テモ+評価+推量+疑問<sup>8</sup>

E1 類: テモラウ+(可能)+条件+評価+逆接言切り、E2 類: テクレル+条件+評価+逆接言切り

F 類: テモラウ+願望(+ノダ+逆接言切り)

G 類: テモラウ+意志+疑問

(山田 2004: 227-229 を一部改変して引用)

### 1.4. 先行研究のまとめと問題点

宮地 (1965) は 3 つの授受動詞の相互承接について分析しているが、筆者は奥津 (1986) が挙げた 7 つの授受動詞全てについて、相互承接した形式を分析する意義があると考ええる。

授受補助動詞が相互に承接した動詞複合体を述語に持つ構文における名詞句の格表示に関して、宮地 (1965) は単一の本動詞に対する考察にとどまっており、本動詞の種別による格表示の異なりに関しては、授受補助動詞が 1 つのみ承接した構文に関する山田 (2004) の記述に限られる。そのため、授受補助動詞が 2 つ承接した動詞複合体を持つ構文における、本動詞の種別をも加味した名詞句の格表示について、本稿で考察する余地があると言える。

## 2. 調査

### 2.1. 使用するコーパス

調査に用いた現代日本語書き言葉均衡コーパス (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese、以下 BCCWJ) についての詳細をまとめる。このコーパスは、日本語の全体像を明

<sup>7</sup> この記述は山田 (2004: 228) をそのまま引用したものであるが、正しくは「テモラウ+テ(モ)+評価+疑問」であると考えられる。

<sup>8</sup> この記述は山田 (2004: 228) をそのまま引用したものであるが、正しくは「テモラウ+テ(モ)+評価+推量+疑問」であると考えられる。

らかにするために、現代日本語書き言葉の変種を出来るだけ多く取り上げ、偏りのないサンプルを提供することを目標としている (前川 2015 を要約)。1976 年から 2005 年にかけて、書籍、雑誌、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、会議録など、幅広いジャンルにわたって 1 億 430 万語のデータが格納されており、各ジャンルについて無作為にサンプルが抽出されている (概要 現代日本語書き言葉均衡コーパスを要約)。

## 2.2. 検索方法

BCCWJ の検索にはオンライン検索ツール中納言を用いた。収集する形式は、7 つの授受動詞「やる、あげる、くれる、もらう、さしあげる、くださる、いただく」のうち、2 つが相互に承接した形式である。実際の検索では、中納言の短単位検索にて検索フォームを用い、次の表 1 のような検索方法をとった。

表 1: 検索フォームの入力例

出現位置	条件	短単位
キーから前方に 4 語	「品詞」の「大分類」が「動詞」	
キーから前方に 3 語	「語彙素」	「て」
キーから前方に 2 語	「語彙素」	補助動詞 1 <sup>9</sup>
キーから前方に 1 語	「語彙素」	「て」
キー	「語彙素」	補助動詞 2

この検索方法では、想定している動詞複合体 (一般動詞テ形+授受補助動詞テ形+授受補助動詞) に加えて一般動詞テ形+授受本動詞テ形+授受補助動詞という形式もヒットしてしまうため、後者は手作業で取り除いた。

## 2.3. 調査結果

2.2.で示した方法により、1421 件の用例を抽出した。7 つの補助動詞が承接する順序が異なれば、別の形式として考えるため、 $7P_2=42$  通りの形式が想定されるが、実際に用例が現れたものは 16 形式であった。さらに今回の調査では、本動詞に授受補助動詞が 2 つ承接している形式に加え、「てあげてやっくださる」という形式が 1 件見つかった。この形式には授受補助動詞が 3 つ承接しており、検索では「てあげてやる」「てやっくださる」のいずれの形式としてもヒットしているため、上述した用例の合計数 (1421 件) では同じ用例を 2 回カウントしている点を留意されたい (表 1 の用例の合計数は 1420 件となっている)。本稿では調査によって得られた各形式に対し、授受補助動詞の系列ごとにまとめた分類を用いる。これは、格表示など各形式に重なる部分が多いため、煩を避ける目的で使用する。本稿ではこれ以降、以下のような系列ごとの承接組み合わせ表記を、分類と称して論じる。

<sup>9</sup> 本稿では、動詞複合体において本動詞に直接承接する授受補助動詞を補助動詞 1、その補助動詞 1 に後接する授受補助動詞を補助動詞 2 と称す。

調査で得られた形式と分類ごとに、用例数をまとめたものが次の表 2 である。

表 2: 調査で得られた用例数

分類	数	形式	数	形式	数
テヤル+テクレル	1225	てやってくれる	142	てあげてくれる	9
※「てあげてくださる」 はテヤル+テクレルへと分類。		てさしあげてくれる	1	てやったださる	259
		てあげてくださる	805	てさしあげてくださる	9
テモラウ+テクレル	168	てもらってくれる	20	ていただいてくれる	1
		てもらってくださる	146	ていただいてくださる	1
テヤル+テモラウ	25	てやってもら	10	てやっただく	9
		てあげていただく	6		
テモラウ+テヤル	1	てもらってあげる	1		
テモラウ+テモラウ	1	てもらっていただく	1		

### 3. 分析

本節では、調査で得られた用例をいくつかの観点から分析し、先行研究の記述と対照する。

#### 3.1. 各補助動詞の相互承接

調査では、テクレルが補助動詞 1 となり、その他の補助動詞 2 が承接する形式は見つからなかった。このことは、「てくれてやる」「てくれてもらう」という形式は存在しないとする宮地 (1965: 32) の指摘と重なる。筆者は、テクレルの命令形が授受動詞としての機能を失い、単に命令・依頼表現としての機能しか持たなくなりつつあることを「テクレルの文法化」と称し、テクレルが補助動詞 2 として承接することが出来ない原因と考える。補助動詞 1 には、一般的に待遇表現でないものの方が用いられやすい。しかし「てやったださる」と「てあげてくださる」の用例件数を比較すると、後者の方が件数が多く、非待遇形である「てやる」よりも「てあげる」の方が補助動詞 1 として承接しやすい傾向も見受けられた (表 1 参照)。補助動詞 2 としてはテクレルの承接が最も生産的である。このことは、テクレルの命令形が授受動詞としての機能を失い、文法化することにより、補助動詞 1 であるテヤルやテモラウが要求する格に影響していないことが原因と考えられる。それに対し、テモラウが補助動詞 2 としてテヤルに後接する場合 (テヤル+テモラウ)、格の衝突が起こり、文法的に必須な格による参与者の格表示が難しくなる。以下に例文 (2) を挙げる。

(2) (中略) 若宮先生から久保の様子についてお母さんに話してやったださらないでしようか」(二条睦『監獄女医』)

そのため、補助動詞 2 としてのテモラウの生産性は高くない。このことは、テヤル+テクレルとテヤル+テモラウを比較すると、テヤル+テモラウの用例件数が格段に少ないことから確認できる。テヤルが補助動詞 2 となる場合は、形式の上でも用例件数の上でも 1 例のみとなり、非常にまれであることが分かった。さらに本調査では、テヤル+テヤル (+テ

クレル) とテモラウ+テモラウの用例が見つかった。以下に例文 (3)、(4) を示す。

(3) (中略) 優しく包んであげてやってください。(Yahoo!知恵袋)

(4) そう言えば、ワタシのパ○モを偽父に返して貰っていない。(中略) 親友に返して貰って頂いたのです。(Yahoo!ブログ)

ここから、テクレルを除けば同系列の授受補助動詞が相互に承接しうる可能性があることが明らかになった。同系列の授受補助動詞の相互承接により、待遇表現を用いて授受関係に参与する人物の複雑な関係性を描くことが可能になると考えられる。

### 3.2. 名詞句の格表示

調査を通して、どの相互承接形式においても、本動詞が必須的に要求する項が受益者である場合は、受益者項はガ格やニ格ではなく、本動詞が要求する格 (ヲ格、ト格など) で現れることが分かった。以下に BCCWJ より抽出した例文 (5)、(6) を示す。

(5) お母さまをしっかり支えて差し上げてください。(Yahoo!知恵袋)

(6) なんとか娘と結婚してやってくれ。(Yahoo!知恵袋)

これは、宮地 (1965) による単一の本動詞に関する限定された分析を補いつつ、山田 (2004: 87) の指摘を支持するものである。

宮地 (1965) は、「てもらってくれる」「てもらってやる」「てやってくれる」の場合、補助動詞 2 の受益者項はノタメニ格を取って現れると分析している。しかし、本調査で得られた用例を参照すると、テクレルが補助動詞 2 である場合、受益者は話し手自身であり、項として明示されることはまれであった。以下に BCCWJ より抽出した例文 (7)、(8) を示す。

(7) 飯時になると、万次郎に食べてもらってくれと、菜を持ってくる女もいる。(満坂太郎『海賊丸漂着異聞』)

(8) 私がかたづけをしているときは、夫が本を読んでやってくれます。(阿部菜穂子『5 歳からでも間に合う英才教育』)

加えて、テヤルが補助動詞 2 として現れる場合でも、受益者がノタメニ格を取って現れるかは定かでない。以下に BCCWJ より抽出した例文 (9) を示す。

(9) 奴隷頭に話をして、君たちを入れてもらってあげるよ。(ヴィルヘルム・ハウフ、乾侑美子 (訳)『冷たい心臓』)

「てもらってあげる」において 1 件のみ発見できた例文 (9) では、受益者が本動詞の項であり、ヲ格で現れているため、宮地 (1965) の指摘を支持することはできない。

### 3.3. 用法

授受補助動詞が相互に承接した形式は、そのほとんどが依頼表現として使用されており、純粋な授受表現として用いられている例はまれであった。以下に例文 (10)~(14) を示す。

(10) 「お芳にな、髪挿と櫛と匂い袋のいいのを選んでやってくれ」「承知いたしました。お任せくださいませ」(門田泰明『大江戸剣花帳』)

(11) (中略) それで、慎二が、理瀬に会いたがってるの。どうしても伝えたいことがあるって。悪いんだけど、聞いてやってくれる？」「もちろん」(恩田陸『黄昏の百合の骨』)

(12) 「娘さんが一人で来ていて…。ちょっと話を聞いてあげていただけませんか」「うん。  
—いや、もちろんだ。今、どこにいる？」(赤川次郎『人形たちの椅子』)

例文 (10) は山田 (2004) の A 類である。(11)、(12) はそれぞれ B 類、C 類であり、疑問の形式を取っていても、聞き手目当て性と聞き手の動作生起の可能性があり、「いいですよ」で返答できる。そのため、これら (10)~(12) は典型的な依頼表現であると言える。

(13) 大目に見てやってもらえればありがたいわ。(田中芳樹『創竜伝』)

(14) 災害に泣く国民の願いをかなえてやっていただきたいと思います。(国会会議録)

(13)、(14) はそれぞれ E 類、F 類に近い表現であるが、「のだが／のだけど」が後続していないため、聞き手目当て性を減じ、「いいですよ」では応答しにくい。そのため依頼表現の周辺のものに位置づけられる。調査では D 類および G 類に属する表現は見つからなかった。上述した例文 (4)、(8)、(9) は受益文らしさを保っており、依頼表現ではない純粋な授受表現としての用例である。

典型的な依頼表現と言える A 類 (1334 件)、B 類 (44 件)、C 類 (10 件) の用例数の合計 (1388 件) は全用例中の約 98%を占める。そのため、授受補助動詞の相互承接形式は依頼表現として使用されやすいと言える。

#### 4. まとめ

以上、授受補助動詞が相互に承接する動詞複合体に関して、各授受補助動詞形式の承接の可否、格表示、用法などについて明らかにした。先行研究で指摘されていた形式に加え、同系列の授受補助動詞が相互に承接する形式をも用例として得ることができ、それらを基に授受補助動詞による多様な人間関係の描き方を記述することができた。

授受補助動詞は動詞複合体の構成要素のほんの一部にすぎず、動詞複合体の階層構造をより正確に捉えるためには、使役や受身などの周辺形式にも目を向ける必要がある。授受補助動詞の複数承接とその他の諸形式の関連について、さらなる研究が期待される。

#### 参考文献・参考 URL・調査資料

ネット上の PDF 資料については、章の名前を《》で、文書の名前を「」で囲んで示す。

〈参考文献〉風間伸次郎 (1992) 「接尾型言語の動詞複合体について：日本語を中心として」宮岡伯人 (編) 『北の言語：類型と歴史』241-260. 東京：三省堂。/ 河野六郎 (1989) 「日本語 (日本語の特質)」亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編) 『言語学大辞典：世界言語編 中』第 2 巻：1574-1588. 東京：三省堂。/ 前川喜久雄 (2015) 《第 1 章『現代日本語書き言葉均衡コーパス』入門》『現代日本語書き言葉均衡コーパス』利用の手引 第 1.1 版 1-18. / 宮地裕 (1965) 「「やる・くれる・もらう」を述語とする文の構造について」『国語学』(63), 21-33. / 奥津敬一郎 (1986) 「やりもらい動詞」『国文学 解釈と鑑賞』51 (1), 96-102. / Shibatani, Masayoshi (1979) Where Analogical Patterning Fails. *Papers in Japanese Linguistics* 6: 287-307. / 山田敏弘 (2004) 『日本語のベネファクティブ「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法』東京：明治書院。〈参考 URL〉概要 現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) [http://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/bccwj/](http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/) (最終閲覧日：2018/1/22) 〈調査資料〉「現代日本語書き言葉均衡コーパス (通常版) BCCWJ-NT コーパス検索アプリケーション 中納言」<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search> (最終閲覧日：2018/1/22)